

洋物理などに領域を広げて行くなど編集方針もかえる予定であるなどの提案が承認された。

7. 大会当番について

昭和64年度の春季大会は気象庁(観測部)、秋季

大会は沖縄支部で担当することが承認された。沖縄大会については、初めての事であり財政面を含め、できる限り支援することが承認された。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
関西支部第10回夏季大学	昭和63年8月1日 ～3日	日本気象学会関西支部	大阪府立労働センター	Vol. 35, No. 6
国際オゾン・シンポジウム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッテンゲン (ゲッテンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Marine Weather-Forecast Models	1988年8月14日 ～9月3日	EARSeL	イギリス・スコットランド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル科学・技術研究討論会	昭和63年8月23日 ～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	Vol. 35, No. 2
数値モデルの系統的誤差に関するワークショップ	1988年9月19日 ～23日	WMO	カナダ・トロント	
月例会「長期予報と大気大循環」	昭和63年9月28日		気象庁	Vol. 35, No. 5
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 5
第26回粉体に関する討論会	昭和63年10月27日 ～29日	同討論会	石川県社会福祉会館	Vol. 35, No. 4
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第10回風工学シンポジウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No. 4
風に関するシンポジウム	昭和63年12月9日	日本農業気象学会	つくば市・農業環境技術研究所	Vol. 35, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和63年12月20日		気象庁	Vol. 35, No. 7

編集後記：本号がお手許に届けられる頃には、梅雨も明け太陽の季節となっていることでしょう。この原稿を書いている6月末の段階では、今梅雨は全般的に小雨傾向で、特に東北から北陸地方にかけかなり少ない模様です。

6月中旬から東シナ海を中心に、梅雨前線の特別観測が実施されています。この観測は、気象衛星、観測船、レーダー等を用いて、梅雨前線を立体的に観測することにより、集中豪雨のメカニズムを明らかにしようというものです。この詳細な観測、解析結果が本誌に掲載され、今後の防災活動に大きく貢献することを期待します。

先の国会で「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」が成立、5月20日公布施行されました。この法律の成立には本号「会員の広場」で話題となっているオゾンホール発見が大きな役割を果たし、このオゾンホール発見には、20数年にわたる日本の南極におけるオゾン観測と、忠鉢氏の研究が大きな役割を果たしていると言えます。

編集委員会では、内容の充実と、そして広く会員のみなさんに親しまれる「天気」作りのためにアンケートを実施する計画です。「会員の広場」も同様の目的の欄ですが、改めて筆を持つのがおっくうなあなた、準備されたハガキに書くだけどしどしご意見をお寄せ下さい。(O)